

平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 自主研究 9	公益目的事業 17
主査名	庭田文近 ・ 城西大学現代政策学部 准教授	
研究テーマ	少子・高齢社会における交通インフラ整備の研究（基礎理論プロジェクト）	
研究の目的： 交通インフラストラクチャーは、計画から施工、供用に至るまで長い期間がかかり、そのため長期的な社会情勢と国家的展望を見据えた整備計画が必要である。また、供用後も長い期間にわたって計画的な維持・管理が必要となってくる。そのため、交通インフラストラクチャーの整備には、その費用負担と受益に関する世代間の衡平性の課題が生じるが、それはとくに少子・高齢社会ないしは人口減少社会では大きくクローズアップされてくる。 本プロジェクトでは、少子・高齢および人口減少時代のわが国の交通インフラストラクチャー整備に際して生じるであろうさまざまな問題のうち、とくに費用負担の世代間衡平性に着目し、それに伴う問題を整理するとともに、その問題への対応を政策評価（交通インフラストラクチャーの社会的費用便益分析）にどのように反映させていくべきなのかを検討していく。		
研究の経過（4月～9月）： Nick Hanley and Edward B. Barbier (2009) <i>Pricing Nature: Cost-Benefit Analysis and Environmental Policy</i>, Edward Elgar Publishing, より、第7章「Discounting and the discount rate」を、主として臼井功氏（横浜国立大学名誉教授）を中心に精読し、特に交通インフラ投資プロジェクトに関して、単一の割引率と変動型（逡増型および逡減型）の割引率について、世代間の衡平な費用負担に着目して議論を行ってきた。 また、樋口清秀氏（早稲田大学国際学術院教授）より、行動経済学の Life Satisfaction Approach を用いた環境質の新たな評価方法に関する報告があり、その利用可能性について議論を行った。		
下期へ向けて（課題等）： これまで世界のインフラ投資プロジェクトに実際に携わってきた平木俊一氏（日本国際協力システム評議員）を中心に、より実務的な観点からの割引率ないしは社会的費用便益分析法についても議論を深めていく予定である。		
研究メンバー（敬称略）： 庭田文近（主査・城西大学） 臼井功（横浜国立大学名誉教授） 平木俊一（元新潟大学） 關哲雄（立正大学名誉教授） 朝日讓治（明海大学） 萩原清子（佛教大学） 樋口清秀（早稲田大学） 三友仁志（早稲田大学） 上遠野武司（大東文化大学経） 倉橋透（獨協大学） 朝日ちさと（首都大学東京） 藤井秀昭（京都産業大学） 森由美子（東海大学） 村野清文（麗澤大学） 岡嶋宏明（常磐大学）		